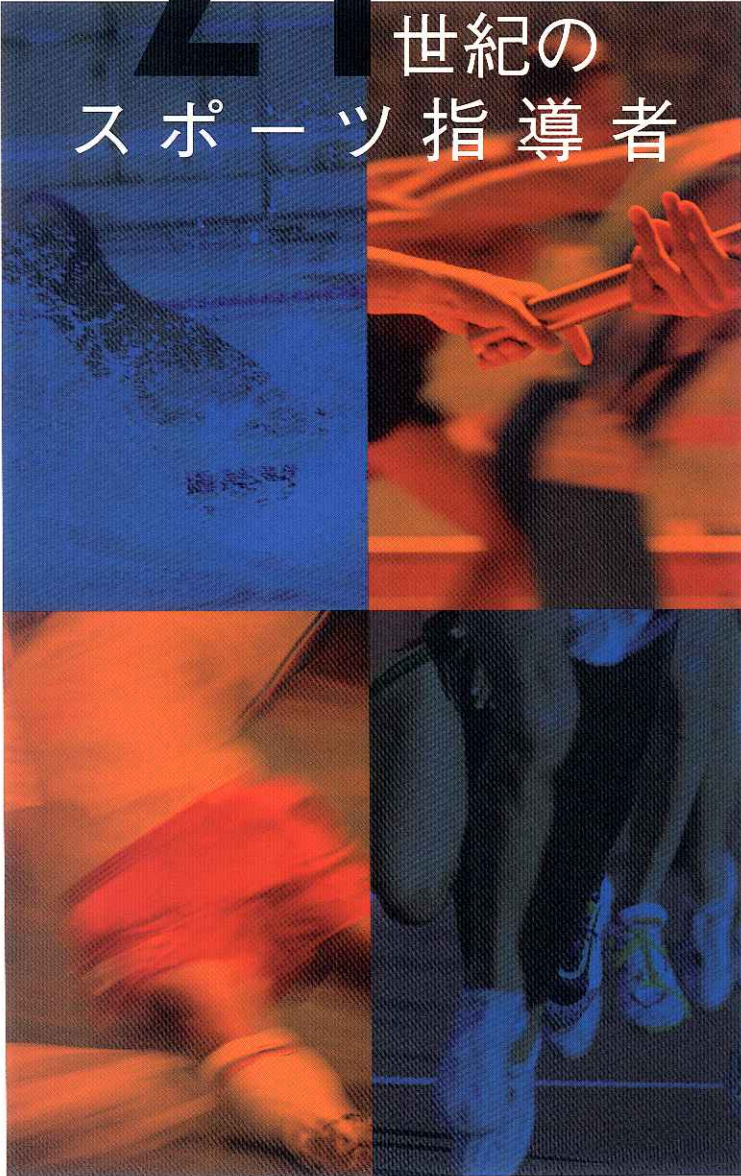


# 21

望ましい  
スポーツ指導者とは

## 世紀の スポーツ指導者



# 21世紀の スポーツ指導者

望ましいスポーツ指導者とは



# I



## 我が国のこれからの スポーツ振興の方向性

### 1 21世紀のスポーツ振興の基本理念

#### 1 生涯スポーツ社会の実現

これからのスポーツ振興に関する(財)日本体育協会（以下「本会」という。）の使命は、国民の一人ひとりが豊かで活力のある「生活／暮らし」を目指し、生涯を通じたライフステージにおいて、自己の能力・適性、興味・関心等に応じ、主体的にスポーツ文化を豊かに享受することのできるスポーツライフを築き上げていくという社会、いわゆる「生涯スポーツ社会」を実現していくということです。

#### 2 生涯スポーツ社会の実現に向けて

生涯スポーツ社会の実現を目指し、国民の一人ひとりがスポーツに対する多様なニーズや能力に応じて主体的なスポーツ実践能力を高め、継続的なスポーツ実践者の増大を図るためには、スポーツ文化を豊かに享受する能力を育成することのできる、資質や能力の高い指導者の存在が不可欠なのです。

本会は、この「生涯スポーツ社会」実現のための具体的な事業の

一つとして、中央競技団体をはじめとする加盟団体とともに、社会の要請に的確に応えることのできる指導力を備えた責任あるスポーツ指導者の養成事業を実施していきます。

## 2 スポーツ振興の具体的視点

### 1 スポーツのある人生

かつては、人生において「スポーツをする」時期というのは、ごく限られた年代の時期にしか行われなかったもののように捉えられていましたが、実際には、そうではありません。

例えば、乳児期においては、ハイハイをすることや家族との触れ合いという行為そのものが全身を使います。そのこと自体をスポーツとは呼びませんが、体を動かす「運動」という意味ではスポーツに関わっていると言えます。

10歳未満ぐらいでは、友達との触れ合いなども増し、楽しみながら知らず知らずのうちに身体を動かし、また、地域の野球クラブやサッカークラブに所属する子どもも出始め、自らの意志でスポーツを始めます。

10代、20代では、自らの欲求から、より専門性の高いスポーツを追求したり、仲間と楽しくコミュニケーションをはかるためにスポーツを行ったりします。

30代、40代では、子どもや家族、仲間とのコミュニケーション、自分自身の生活の充実をはかるため、また、日常の仕事からリフレッシュするためなどにスポーツを行います。

50代、60代では、気持ち良い汗をかきたい、体力を維持したい、老化を防止したい、スポーツをすることで生きがいを感じたいなどの理由からスポーツに携わることが考えられます。

このように、個人によってスポーツをする目的は様々です。ライフステージに応じたスポーツへの取り組み方があるとともに、これまでスポーツを行っていなかった人々にとっても「スポーツとの出会い」は、どの年代でもあります。

また、競技力向上を目指し、自らの限界に挑戦しつづけるトップアスリートは、世界で一番になる、世界で活躍したいなど自らの目的を叶えるために「生活／暮らし」の中心にスポーツがあります。

トップアスリートたちは、激しく苦しい練習に耐えながら自らの目的を達成するために、その他の欲望に惑わされず生活しているのです。これも「スポーツのある人生」の一つです。

しかし、トップアスリートとして活躍してきた選手もいつかはその競技生活からリタイヤする時が訪れます。目的達成のために身体を酷使し、挑戦し続けたスポーツとの別れも、スポーツとの決別の時ではなく、人生の中では単なる通過点に過ぎず、スポーツへの新たな携わり方のスタートを切る時となるのです。

## 2 スポーツへの多様な関わり

日本のスポーツは、学校体育や企業スポーツを基盤とした「する」スポーツを中心に発達してきました。

しかし、近年、少子高齢化やバブル崩壊後の長期的な経済不況、急速な高度情報化など、社会的背景の変化とともに、企業スポーツ等の衰退、子どもたちの体力低下、国際競技力の低迷など、スポーツ界も多くの課題に直面しており、スポーツ環境の整備についてはこれまでと同じ形で進めていくことが難しくなっていると考えられます。

### 社会環境の変化とスポーツ

少子化と超高齢社会  
ライフスタイルの多様化  
国際化  
高度情報化

学校運動部や  
企業スポーツの衰退  
国際競技力の低迷  
青少年の体力低下

スポーツ環境の整備が必要

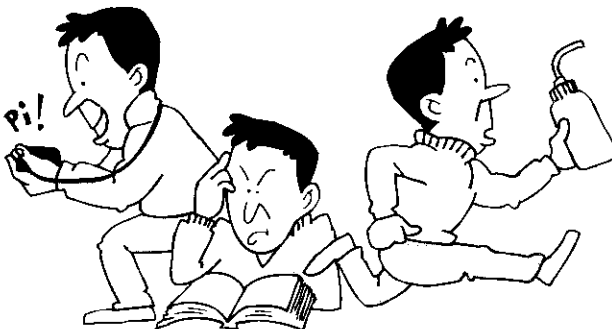
このような社会的背景の変化とそれに伴う価値観の多様化、ライフスタイルの急激な変化は、人々のスポーツへの関わり方にも大きな変化をもたらし、「する」スポーツだけでなく、「みる」「ささえる」などのさまざまな関わり方が存在するようになってきました。

「する」スポーツは、子どもから大人まで、誰もが同じルールで気軽に楽しめるニュースポーツや自然環境を楽しむアウトドアスポーツ、スケートボードなどコンクリートの上でも楽しめるストリート系のスポーツなどたくさんの新しい分野を生み出しました。

また、「みる」スポーツとしては、日本のプロ野球やJリーグはもとより、衛星放送やインターネットを使うことによって、誰でも簡単に世界のスポーツをリアルタイムで楽しむことができるようになりました。特に近年では、世界のトップレベルのプレイを楽しむことのほかに、日本を離れ、世界で活躍する日本人選手が多く現れたことから、ますます「みる」スポーツへの関心が高まっています。

「ささえる」スポーツでは、1998年のオリンピック長野冬季競技会や2002年に日韓共催で開催されたサッカーワールドカップで、たくさんのボランティアの方々が活躍されました。このことは、自己の持っているノウハウを活かし、スポーツイベントをはじめとする各種のスポーツ活動の場面において支援することにより、自己実現や自己充実を図ろうとする人々が増加しているという傾向にあることを示していえます。

このように、スポーツには、運動能力の高い人たちだけではなく、様々な目的のもとで、子どもからお年寄りまで、多くの人々が関わるようになりました。



我々は  
学ぶことをやめたときに、  
教えることを  
やめなければならない

ロジェ・ルメール(フランス)

一度は耳したことがある方も少なくないだろう。サッカーの指導者養成講座で、必ずと言ってよいほど引用される一文である。いっさいの虚飾を排した直截なメッセージ。それだけに聞く者の心に素直に響く。日本サッカー協会が中心となって開催した「第2回フットボールカンファレンス」(2001)でのメッセージである。ロジェ・ルメールは元フランス代表監督。98年フランス・ワールドカップでチームを優勝に導いたエメ・ジャケの後を引き継いで監督に就任。00年ヨーロッパ選手権は制したものの、日本で開催された02年ワールドカップでは一次グループで敗退し、直後に解任された。フランスのサッカーといえばINF(国立サッカー学院)を中心とした選手育成に定評があるが、アルセーヌ・ベンゲル、ジェラルド・ウリエなど世界でも指折りの優秀なフランス人指導者も多数輩出している。「プレイヤーとしての能力」と「指導者としての能力」を測る物差しが厳密に区別されている国の指導者にとってみれば、当然の発言だろう。「そんなに反響があることを言った覚えはないのに」分りにくいコメントが多い、とメディアにたびたび評されていたルメール氏は、案外そんなふうにいるのかもしれない。

# II



## 求められる スポーツ指導者像

### 1 スポーツ指導者の役割

#### 1 スポーツ文化とスポーツ指導者

スポーツ文化を豊かに享受する能力とは、プレイヤー（日常生活において楽しみ、気晴らしとしてスポーツを楽しむ人から、世界のトップを目指す競技者まで、スポーツ活動に参加するすべての人、すべての指導対象者をプレイヤーと表現しています。）が自らスポーツをすることに意義と価値をもち、スポーツの競技規則、スポーツマンシップとフェアプレイに代表されるマナー、エチケットなどのスポーツ規範に基づき主体的・継続的にスポーツの楽しさや喜びを味わうことです。

これらの能力を育成するためスポーツ指導者は、自らがスポーツ文化を理解し、プレイヤーとお互いに尊敬しあい、プレイヤーの立場に立ち、サポートしていかなければなりません。

また、これまでの指導は、個々人が持つスポーツの目的を合理的に達成するための方法としてスポーツ技術・戦術に関する指導が中心となっていましたが、スポーツの行い方や取り組み方、とりわけ

スポーツに意義と価値を与えるスポーツ観、競技規則だけではなくスポーツマンシップとフェアプレイに代表されるマナー、エチケットなどの道徳的規範を指導することがスポーツ文化の豊かな享受能力を育成していくためには重要となります。

## 2 スポーツライフの構築とスポーツ指導者

快適なスポーツライフの構築には、施設や用具、プログラムといったスポーツ環境の要因とともに、年齢、体力、技術、環境に応じて快適にスポーツを享受できるように、スポーツとの関わりを自ら主体的にコーディネートする資質や能力が求められます。

また、スポーツそのものを楽しみ、快適なスポーツライフを送るためには、ある程度の練習やトレーニングなどの努力が不可欠となります。少し技術が身について上手になれば、もっと上手になるための練習やトレーニングの努力を惜しまない、ということはスポーツを実践した人であれば感じたことがあると思います。さらに、仲間への思いやりや協調するというマナーやエチケットも重要な要素になります。

しかし、スポーツ経験があまりなければ、どのようにスポーツに取組めば良いのか分からない人もいることから、ともにスポーツを

### 指導者の気持ち

#### スポーツを通じて、何を得てほしいのか

(プレイヤーの内面に芽生えてほしいこと)

- 健康
- 自信
- 自立心
- 責任感
- 創造力
- 決断力
- コミュニケーション能力
- 情熱
- スポーツマンシップ
- フェアプレイ精神

#### プレイヤーに 味わってほしいこと

- 充実感
- 満足感
- 達成感
- 爽快感

#### こんなプレイヤーになってほしい

- ポジティブ・シンキングなプレイヤー
- 自立したプレイヤー
- 決断力のあるプレイヤー
- 創造性のあるプレイヤー
- 視野の広いプレイヤー
- 自分の意見を正確に表現できるプレイヤー

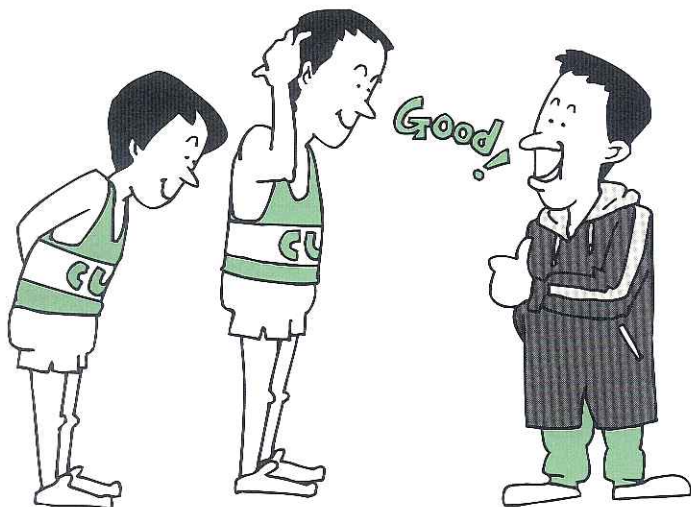
する仲間づくりをサポートしたり、上手になるように導いてくれる指導者が必要になってきます。

スポーツに対する人々のニーズやスポーツライフの構築の方法は様々です。しかし、国民の一人ひとりが自己の年齢、体力、技術、環境に応じたスポーツライフを構築していくためには、スポーツ指導者がスポーツ環境やスポーツへのかかわり方を自らコーディネートする能力（具体的な方法や内容を身につけ実践していく能力）を高めていくためのサポートをすることが重要となります。

## 求められるスポーツ指導者

国民の一人ひとりが主体的・継続的にスポーツの楽しさや喜びを味わうためには、スポーツ観やスポーツ規範についても充分身につけ実践していくことが重要ですが、これらはプレイヤー自らが自覚し実践するものであり、指導者からの強制や罰則などによって規制されるものではありません。

これまでの日本のスポーツ界では、厳しさこそが「スポーツ」という風潮があったことは否めません。指導者が情熱を注ぐあまり、思い余って体罰や言葉による暴力ともいえるようなことが起きてしまっていることがあります。ちょっとした言動からプレイヤーの心



を傷つけていることが現実の問題としてあり、「スポーツ離れ」「スポーツ嫌い」が起きているのです。特に子どもたちや女性を指導する場合は、心を傷つけたり、不快な思いをさせないように十分な配慮が必要です。

スポーツ指導者は、「スポーツの楽しさ」を自ら表現できるモデルとなり、言動で見本を示す必要があります。しかも、スポーツ指導者がプレイヤーとお互いに尊敬の関係を築き、指導することによって、プレイヤーに伝えることができるものなのです。

単に技術・戦術の指導に優れているだけではプレイヤーに信頼される指導者にはなれません。指導者の人格がプレイヤーに尊敬されてこそ信頼を得られるのです。

相互尊敬の関係を築くためには、スポーツ医・科学に裏付けられた知識とコミュニケーションスキルを身につけ、プレイヤーの立場に立った指導をするとともに、スポーツマンシップとフェアプレイに代表されるスポーツのマナー、エチケットの手本となるような態度・行動が重要となります。

また、何よりも大切なことはプレイヤーとコミュニケーションを図ることです。相手のニーズや要望にあわせ、同じことを伝えるにも、相手に応じて話し方を工夫するなど、個々人の特徴に対応した一対一のコミュニケーションを図ることが求められます。

スポーツ指導者は、多様なニーズに的確に対応するため、常に自己研鑽を図り、自ら成長・発展し、周囲から尊敬・信頼される人間であることが求められています。

### 3 望ましい公認スポーツ指導者

スポーツ指導者は、スポーツに関わる人々のさまざまな欲求に対し適切にサポートしていくことが求められています。

そのために指導者は、専門的な知識・技能や高いコーチング能力だけでなく、少なくとも次のような点に対応していくことが求められます。

- ① コミュニケーションスキルを身につけ、「プレイヤーの話を聞く」、「叱るより良い点を誉めて伸ばす」、「教えすぎずプレイヤーに考える力をつけさせる」、「責任を持たせる」など、プレイヤーのやる気と自立心を育てるためのサポートをする。
  - ② スポーツマンシップとフェアプレイに代表されるマナー、エチケットなど道徳的規範を身につけさせるためのサポートをする。
  - ③ プレイヤーが明確な目標を設定できるようにサポートする。
  - ④ スポーツとの出会いをコーディネートする。
  - ⑤ スポーツを継続できるようにサポートする。
  - ⑥ スポーツ仲間をつくるためのサポートをする。
  - ⑦ 快適なスポーツライフを構築するための方法や内容についてのサポートをする。
  - ⑧ 長期一貫指導システム（競技者育成プログラム）の理念と方法を理解し、個々人の年齢、技能、要求にあったその年代における最適な指導を行う。
  - ⑨ メディカル・コンディショニングスタッフ、マネジメントスタッフなどと協力し、プレイヤーに対し最適な環境を提供する。
  - ⑩ 自ら研鑽に努め社会に評価される指導者を目指す。
- このような、多様なニーズに適確に対応できる指導力を身につけた指導者こそ望ましい公認スポーツ指導者なのです。



## 4 より良い指導者になるために

### 1 GOOD COACHになりましょう

今、ビジネス界では、「コーチング」という言葉が頻繁に使われ、管理職にあたる方々は「コーチング・スキル」を高めることに大きな関心を寄せています。書店のビジネス書のコーナーに立ち寄れば「コーチング」というタイトルのついた本が何種類も出版されていて、どれを選んでいいか迷うくらいの人気です。そもそも「コーチ」という言葉の語源は「大型四輪馬車」で「客を目的地まで運ぶ（送り届ける）」という意味であり、スポーツ界で「コーチング」といえば、「プレイヤーが“なりたいと思う自分”に近づけるためにサポートする」と言うことができます。

ではなぜビジネス界（特に管理職の方）で注目されているのでしょうか。それは「コーチング」の基本的概念が「自発的な行動を引き出すためのコミュニケーションスキル」だからです。スポーツ指導者が目指すべき「GOOD COACH」がすべきこととは、プレイヤー自身が自主的、積極的な行動に取組むための環境づくりといえるのです。

### 2 PATROLしましょう

では、プレイヤーが自立（自律）し、自ら進んで取組むようにするためには指導者としてどんなことに心がけていけばよいでしょうか。そこで提案したいのが“PATROL”です。PATROLとは「巡回する、見てまわる」という意味です。分解してみると指導者が持つべき心構えの頭文字と当てはまります。きっと「GOOD COACH」となるためのヒントとなるはずですので憶えていてください。皆さんもプレイヤーを公平に見てまわり「誉めて、夢中にさせて」可能性を引き出してあげましょう。さあ「PATROL」しましょう。

**Process：**「結果ではなく、経過を重視しましょう」

結果を評価するのではなく、経過を重視しましょう。どんな結果であろうとも、結果にいたるまでの努力や行動があったはず

です。いい結果が出た時も悪い結果が出たときも、プレイヤーと一緒に原因を考えてみましょう。

**Acknowledgment**：「承認しましょう」

プレイヤーの意志を尊重し、その行動や言動を承認することが重要です。自らの存在を認められることが、プレイヤーにとって大きな励みとなるのです。

**Together**：「一緒に楽しみ、一緒に考えましょう」

何よりも指導者自身が楽しくなければ、プレイヤーも楽しくありません。プレイヤーとともにスポーツを一緒に楽しみましょう。

**Respect**：「尊敬しましょう、尊重しましょう」

年齢、性別に関係なく、すべての人を尊敬する気持ちを持ちましょう。10人いれば10人の個が存在します。プレイヤーの個性を尊重しましょう。

**Observation**：「よく観察しましょう」

プレイヤーをよく観察しましょう。体調は万全か、悩み事はないだろうか。見ていなければわかりません。「見られている」ことでプレイヤーは安心するのです。

**Listening**：「話をよく聴きましょう」

自分が話すより、プレイヤーの話を聞く時間を多く取るように心がけましょう。指導者が「なってほしいプレイヤー」ではなく、プレイヤー自身が「なりたい」自分を意識し、気づかせるためには、プレイヤー自身にたくさん話す機会を作ってあげましょう。

### 3 常に自己研鑽

PATROLすることが自然とできるようになれば、プレイヤーと指導者との関係はきっとよくなるはずです。あとは、プレイヤーから

どんな質問を求められてもしっかりと応えられるよう、最新情報やルールを学んでおけばいいのです。その機会を提供してくれるのが、各種研修会やセミナーなどです。最新情報は専門誌を読めばわかるのかもしれませんが、研修会やセミナーは多くの指導者が集まる場所でもあります。本を読んだだけではわからなかったことが理解できたり、同じ悩みを持った指導者と意見交換ができたり、自分の指導法を見直す機会になったり、多くの指導者に会うことによって新たな自分に気づいたりします。プレイヤーは進化しつづけます。指導者も一緒に進化していかなければならないのです。よりよい指導者を目指し、積極的に自己研鑽していきましょう。



# III



## 新たなスポーツ環境と スポーツ指導者

### 1 スポーツ指導活動の場

我が国のスポーツは、競技スポーツにおいては学校運動部、企業スポーツなどを中心に、生涯スポーツにおいては、スポーツ少年団やママさんバレーなど地域のスポーツクラブ又は民間のスイミングクラブやフィットネスクラブ等を中心に発展してきました。

このことから、学校を卒業したり、所属クラブを辞めてしまうとスポーツと離れてしまうことが多く、生涯にわたってスポーツに親しむ環境が整っていない状況でした。

また、地域のスポーツクラブの多くが単一種目で、性別、年齢等が限定され、閉鎖的な傾向があることも、スポーツをしたい人が、個々人の要求に合わせ、いつでも、どこでもスポーツができる状況にはありませんでした。

しかし、近年、国民の一人ひとりが自己の能力や興味・関心、ライフスタイルなどに応じて主体的にスポーツを実施していくという生涯スポーツ社会の実現を図るために、多様なニーズを包含し、多様な活動が可能となる地域に密着した総合型地域スポーツクラブの育成や、そのサポートなどを行う広域スポーツセンターの設置等、従前の施策に加え、新たな視点からの施策が打ち出され、その取り組みが今始まっています。

## 地域スポーツクラブとスポーツ指導者

### 1 総合型地域スポーツクラブの特徴と可能性

近年、スポーツを「する」「みる」「ささえる」などの楽しさや自己の充実を味わう場として、地域、学校、家庭、企業、行政が一体となってすべての人が参加できる地域のスポーツクラブを「つくる」試みが全国各地で始まっています。それが、新しいスポーツ活動の場としての総合型地域スポーツクラブづくりです。

総合型地域スポーツクラブの「地域」とは、特に定義されたものではありませんが、概ね中学校区程度の範囲とされています。

総合型地域スポーツクラブは、様々な考えや目的を持ったメンバーの自主的かつ連帯性のあるクラブであり、学校開放等を利用して個人的あるいは少人数でスポーツを行う人、スポーツ大会やスポーツ教室等に参加してスポーツを行う人、さらにはスポーツを行わない人のスポーツニーズを満たすことを目指しています。

ここでは、スポーツタレントの発掘・育成、一貫指導も併せて実施することで、中長期的な視点からの競技者育成も期待できます。

また、これまで日本のスポーツを支えてきた企業スポーツ等が縮小・衰退する中、その新しい受け皿として総合型地域スポーツクラブへの期待が高まっています。

一貫した指導理念・方法のもと、スポーツを行う環境を備えた総合型地域スポーツクラブが、指導者の新しい活動の場として、また競技者の新しい活動基盤として期待されています。



このように総合型地域スポーツクラブは、生涯スポーツ、競技スポーツ、学校体育・スポーツを包含した、わが国の新しいスポーツ基盤として、そして魅力ある地域社会を形成する新たな試みとして、様々な波及効果が期待される中、官民一体となった整備が求められています。

## 2 総合型地域スポーツクラブにおけるスポーツ指導者

この新たなスポーツ活動の場としての総合型地域スポーツクラブも、資質の高いスポーツ指導者の活躍なくしては、期待どおりの活動とはなりません。

地域のスポーツ環境の整備と競技者育成の基盤となる総合型地域スポーツクラブでは、多種多様な志向と様々なニーズを持ったクラブ会員に対して、どのような人材が必要でしょうか。

具体的には、会員へのスポーツ指導や、スポーツとの出会いを演出するスポーツ教室の実技指導を担当する競技別指導者やフィットネス系指導者などのコーチングスタッフが必要です。

また、会員が日常のスポーツ活動を安心して行うために、スポーツドクターやアスレティックトレーナーなどのメディカル・コンディショニングスタッフとの連携も必要となります。

### 今後期待されるスポーツ活動の場と必要なスタッフ



さらに、会員が継続的に快適なクラブライフを送るための環境を整備するとともに、クラブ内のそれぞれの指導者が、それぞれの立場で能力を活かして活動できる環境づくりとクラブを健全に継続して運営するためのクラブマネジャーなどのマネジメントスタッフが必要となります。

今後、全国的に「総合型地域スポーツクラブ」の創設・育成が進むことを考えた場合、数多くの資質の高いスタッフが求められ、有資格指導者の新たな活動の場が広がります。

### 3 広域スポーツセンターとスポーツ指導者

#### 1 広域スポーツセンターの機能と役割

総合型地域スポーツクラブの創設や育成とともに、広域圏内におけるスポーツ活動全般について、効率的な支援を行う役割と機能を持った広域スポーツセンターが徐々に整備されつつあります。

広域スポーツセンターは、次の機能を持っています。

- ・総合型地域スポーツクラブの創設、育成に関する支援
- ・総合型地域スポーツクラブのクラブマネジャー、指導者の育成に関する支援
- ・広域市町村圏内におけるスポーツ情報の整備・提供
- ・広域市町村圏内におけるスポーツ交流大会の開催
- ・広域市町村圏内におけるトップレベルの競技者の育成に関する支援
- ・地域のスポーツ活動に対するスポーツ医・科学面からの支援

広域スポーツセンターは、広域市町村圏内の複数の総合型地域スポーツクラブを支援する機能を持つとともに競技者育成拠点としての機能を持つものとして期待されています。

また、その地域における総合型地域スポーツクラブのコンサルタントであり、コーディネーターでもあります。専門的知識を持ってクラブ経営を担当するクラブマネジャーの育成、スポーツ指導者の研修・派遣などを行うとともに、各クラブの個別の問題解決をも支援します。

したがって広域スポーツセンターには、スポーツ医科学施設・設備の充実、IT機能の強化、スポーツ情報の提供とともに、これらを効果的に機能させるためマネジメント能力を持った人材や競技別指導者などの専門スタッフを配置することが必要となります。

広域スポーツセンターは、総合型地域スポーツクラブの育成並びに広域市町村圏内のスポーツ振興を図る中核的存在として、各地域の取り組みを体系的・計画的に支援していくことが期待されています。

## 2 広域スポーツセンターにおけるスポーツ指導者

実際に広域スポーツセンターが、その機能と役割を十分に発揮するためには、資質の高いスポーツ指導者の存在が不可欠です。

総合型地域スポーツクラブの創設・運営に関する支援であれば、クラブの経営・運営を健全に継続していくためのマネジメント能力を持った人材が必要なことはもちろんであり、その任に当たる人材はクラブマネジメントに関する専門的な知識・能力とともに、行政機関や各種スポーツ団体との連携協力を得るために必要な交渉に関する知識・能力を持っていることが要求されます。

広域スポーツセンターの行う事業としての巡回指導や競技者の育成強化のための合宿などでは、我が国における各競技統括団体である中央競技団体の競技者育成プログラム（一貫指導システム）を理解し、全国的に統一された指導方針に沿った指導が行われる必要があることから、特に資質の高い指導力を有した有資格指導者の存在は不可欠となるのです。

## 4 スポーツ少年団とスポーツ指導者

日本スポーツ少年団は、スポーツによる青少年の健全育成と生涯スポーツの芽を育てることを目的として、1962年6月に創設されました。以来、40年を経て、関係者の情熱と努力により、団員・指導者合わせ110万人を擁する我が国最大の青少年スポーツ組織に成長しました。

しかし、今後、スポーツ少年団活動の一層の拡充を図っていくためには、青少年の体力の低下や続発する問題行動などの諸問題並びに学校週5日制の完全実施などを視野におき、地域における青少年のスポーツ組織として、青少年のスポーツ環境や一貫した指導体制等の整備と充実を図っていく必要があります。

また、少女をはじめ中・高校生の加入促進のための体制作りを行うとともに、地域社会との連携を考慮して、小学校期のみならず、中学・高校期以降の継続的なスポーツ活動を推進することができるジュニアスポーツクラブとしての基盤整備を図るなど、地域における多様な青少年スポーツ活動の受け皿としての充実策を検討していくことが求められています。

このような活動が、スポーツ少年団を核とした総合型地域スポーツクラブづくりに繋がり、それぞれの地域においてスポーツ少年団が中心的役割を担うこととなるのです。

また、21世紀をたくましく生きる青少年を育成していくためには、青少年のスポーツを振興し、心身の健全な育成・発達を促すとともに、自己責任やフェアプレイの精神、仲間との交流を通じたコミュニケーション能力や豊かな心と他人を思いやる心などを育成していく必要があります。スポーツ指導者の果たす役割が極めて重要となってきます。

発育・発達期の子どもたちを指導するスポーツ指導者は、スポーツ活動をめぐるマナーやエチケットに関する指導をはじめ、生涯スポーツの芽を育てるために、子どもたちの発育・発達段階、技能レベルや志向に応じた指導を行うとともに、特に幼少年期の子どもたちには遊びを通じた身体づくり、動きづくりの指導を行うことが大切となります。

ここでも、有資格指導者のさらなる活動が期待されています。

## 5 学校運動部活動とスポーツ指導者

学校運動部活動は、学校の指導のもとに学校教育活動の一環として、スポーツに興味と関心を持つ同好の生徒によって自主的に組織され、部員同士の切磋琢磨や自己の能力に応じてより高い水準の技能や記録に挑戦する中で、スポーツの楽しみや喜びを味わい、豊かな学校生活を経験する活動です。さらには、生涯にわたってスポーツに親しむ能力や態度を育て、体力の向上や健康の増進を図るだけでなく、学級や学年を離れて生徒が自発的・自主的に活動を展開することにより、自主性、協調性、責任感、連帯感などを育成するとともに仲間や教師との密接なふれあいの場として大きな意義を有しています。

しかしながら、近年、少子化による運動部活動数の減少や顧問教師の高齢化・実技指導力不足等により少年期のスポーツ活動を行う場としての機能を十分に果たすことができなくなっています。

このことにより、多人数を必要とするチーム競技ではチーム編成ができず他校との合同部活動をせざるを得ない状況が生じたり、部活動の対象競技に自分の好きなスポーツがないことや競技志向が強く好きなスポーツを楽しくできないことからスポーツから離れてしまう状況が生じてきています。このような状況に対処するため、学校が必要に応じて外部指導者に協力を求めることができるなどの環境整備が一層促進されております。

また、文部科学省の「体力・運動能力テスト」では、1980年前後をピークに、青少年の基礎体力・運動能力が低下を続け、子どもたちの体力不足が問題となっています。

このような中、学校運動部活動においても、外部指導者として有資格指導者の果たす役割はますます重要になってきます。有資格指導者は、学校運動部活動の意義や運営の在り方などを十分に理解した上で、子どもたちの心身の発育・発達に十分に配慮し、子どもたちのスポーツに対するニーズに合わせた指導を行い、スポーツの楽しみ方や取り組み方を指導するとともに、豊かな人間性の涵養に資することが期待されています。

# 指導の 金言

ある人に  
魚を一匹与えれば、  
その人は一食を得る。  
魚の捕り方を教えれば、  
その人は生涯食える

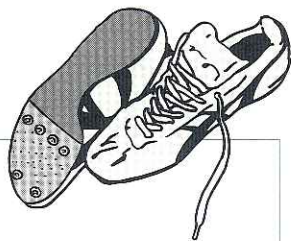
管仲(中国)

管仲は春秋時代、齊の宰相。この金言は、管仲の思想をまとめたといわれる『管子』に収められた一言。『管子』の中にはこの他にも「一つの手間で、一の利益を得るなら穀物を植える、十の利益を得るには木を育てる、百の利益を得るには人を育てる事だ」と、人材養成の重要性を説くものが多い。

スポーツは競技(コンペティション)である以上、指導者が勝利を目指した指導を行うことは当然。ただ勝利を求めるあまり指導を急ぎ、答えを与えてしまったとしたら、結局は競技者が生涯食える(=スポーツに親しむ)指導にはならないだろう。

管仲がスポーツ競技者の育成を念頭に置いていたはずはもちろん無いが、この言葉がスポーツ指導者に示唆するものは重い。管仲が仕えた齊の桓公は凡庸といわれながら、春秋時代最初の覇者となった。今も昔も指導者の重要性は変わらないのである。

# IV



## これからのスポーツ 指導者養成の方向性

### 1 これからのスポーツ指導者養成の方向性

第Ⅲ章「新たなスポーツ環境とスポーツ指導者」でも紹介しており、本会のスポーツ指導者養成事業は、今後のスポーツ活動の場において必要とされるスタッフを想定し、実技指導を担当するコーチングスタッフ、医学面からのサポートを行うメディカル・コンディショニングスタッフ、地域スポーツクラブなど組織を円滑に経営していく存在であるマネジメントスタッフを養成していくこととなりました。

### 2 日本体育協会が加盟団体等と協力して 養成するスポーツ指導者の分類と役割

スポーツが「安全に、正しく、楽しく」行われるためには、スポーツ技能を指導する実技指導者の存在の重要性もさることながら、医学面からのサポートを行うスポーツドクターやアスレティックトレーナー、さらには地域スポーツクラブなどの組織を円滑に経営していくマネジメント能力を持った人材が、それぞれの立場を尊重しながら協力していく体制が不可欠です。本会では、下表に示すスポーツ指導者を養成しています。

## 日本体育協会が加盟団体等と養成するスポーツ指導者の分類と役割

### スポーツ指導基礎資格

資格	役割
スポーツリーダー	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる。</li> </ul>

### 競技別指導者

資格	役割
指導員	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域スポーツクラブ等において、スポーツに初めて出会う子どもたちや初心者を対象に、競技別の専門的知識を活かし、個々人の年齢や性別などの対象に合わせた指導にあたる。</li> <li>特に発育発達期の子どもに対しては、総合的な動きづくりに主眼を置き、遊びの要素を取り入れた指導にあたる。</li> <li>地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導にあたる。</li> <li>施設開放において利用者の指導支援を行う。</li> </ul>
上級指導員	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域スポーツクラブ等において、年齢、競技レベルに応じた指導にあたる。</li> <li>事業計画の立案などクラブ内指導者の中心的な役割を担う。</li> <li>地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導において中心的な役割を担う。</li> <li>広域スポーツセンターや市町村エリアにおいて競技別指導にあたる。</li> </ul>
コーチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域において、競技者育成のための指導にあたる。</li> <li>広域スポーツセンターや各競技別のトレーニング拠点において、有望な競技者の育成にあたる。</li> <li>広域スポーツセンターが実施する地域スポーツクラブの巡回指導に協力し、より高いレベルの実技指導を行う。</li> </ul>
上級コーチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナショナルレベルのトレーニング拠点において、各年代で選抜された競技者の育成強化にあたる。</li> <li>国際大会等の各競技会における監督・コーチとして、競技者が最高の能力を発揮できるよう、強化スタッフとして組織的な指導にあたる。</li> </ul>
教師	<ul style="list-style-type: none"> <li>商業スポーツ施設等において、競技別の専門的指導者として、質の高い実技指導を行う。</li> <li>会員（顧客）が満足できるよう、個々人の年齢や性別、技能レベルやニーズなどに合わせたサービスを提供する。</li> </ul>
上級教師	<ul style="list-style-type: none"> <li>商業スポーツ施設等において、競技別の専門的指導者として質の高い実技指導を行う。</li> <li>会員（顧客）が満足できるよう、個々人の年齢や性別、技能レベルやニーズなどに合わせたサービスを提供する。</li> <li>各種事業に関する計画の立案、指導方針の決定など組織内指導者の中心的役割を担う。</li> <li>地域スポーツ経営のためのコンサルティングならびに経営受託の企画・調整を行う。</li> </ul>

## フィットネス系指導者資格

資格	役割
ジュニアスポーツ指導員	・ 地域スポーツクラブ等において、幼・少年期の子どもたちに遊びを通じた身体づくり、動きづくりの指導を行う。 ・ 主として青年期以降のすべての人に対し、地域スポーツクラブなどにおいて、フィットネスの維持や向上のための指導・助言を行う。
スポーツプログラマー	

## メディカル・コンディショニング資格

資格	役割
スポーツドクター	・ スポーツマンの健康管理、スポーツ障害、スポーツ外傷の診断、治療、予防研究等にあたる。 ・ 競技会等における医事運営ならびにチームドクターとしてのサポートにあたる。 ・ スポーツ医学の研究、教育、普及活動等をとおして、スポーツ活動を医学的な立場からサポートする。 ・ スポーツドクター及びコーチとの緊密な協力のもとに、競技者の健康管理、障害予防、スポーツ外傷・障害の応急処置、アスレティックリハビリテーション及び体カトレーニング、コンディショニング等にあたる。
アスレティックトレーナー	

## マネジメント資格

資格	役割
アシスタントマネジャー	・ 地域スポーツクラブにおいて、クラブ員が充実したクラブライフを送ることができるよう、組織経営のための諸活動をサポートする。 ・ 地域スポーツクラブにおいて、クラブ会員が継続的に快適なクラブライフを送ることができるよう健全なクラブ経営を行う。 ・ 地域スポーツクラブの活動が円滑に行われるために必要な競技別指導者、フィットネス指導者、メディカル・コンディショニング指導者などのスタッフがそれぞれの役割に専念できるような環境を整備する
クラブマネジャー	

# CONCEPT

## 公認スポーツ指導者養成の基本コンセプト

財団法人日本体育協会及び加盟団体等は、生涯スポーツ社会の実現を目指し、生涯を通じた「快適なスポーツライフ」を構築するため、その推進の中心となるスポーツ指導者を養成する。

### 財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者とは

財団法人日本体育協会及び加盟団体等が、公認スポーツ指導者制度に基づき資格認定する指導者とは、スポーツ医・科学の知識を活かし、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導し、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝えることができる者である。

### 望ましい公認スポーツ指導者像

公認スポーツ指導者は、日常の「生活／暮らし」にスポーツを取り入れることによって「豊かな人生」を得られることを広く一般に定着させるとともに、「仲間と楽しく行いたい」、「うまくなりたい、強くなりたい」さらに「健康になりたい、長生きしたい」という欲求に応えられるよう、その実現に向けて「サポート」するという役割を持つ。

また、常に自己研鑽を図り、自ら成長・発展するとともに、社会的評価を得られるよう努力することが重要である。

## 公認スポーツ指導者ができること

- ◎スポーツに初めて出会う子どもたちが、安心してスポーツ活動を楽しめるようサポートすること
- ◎どの年代からでも、スポーツを始められるようサポートすること
- ◎生涯を通じてスポーツを楽しむ方法や機会を提供すること
- ◎スポーツの経験がない人でも「スポーツ愛好家」に導くようサポートすること
- ◎技能をもっと高めたいという、ジュニアからトップレベルまでの競技者の願いが実現するようサポートすること
- ◎スポーツを通して人間としてのマナー、エチケットなど豊かな人間性を涵養すること

## 21世紀のスポーツ指導者 ～望ましいスポーツ指導者とは～

---

発行日 2005年3月31日 初版発行

発行 財団法人日本体育協会 指導育成委員会  
〒150-8050  
東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育館  
電話03-3481-2482  
<http://www.japan-sports.or.jp>

印刷 有限会社創文企画  
〒101-0054  
東京都千代田区神田錦町2-5-25 第一大塚ビル3F  
電話03-3295-4466

---

**SPORTS**  
**for all**

あなたのスポーツライフをサポートします

<http://www.japan-sports.or.jp>